

**世の中には自分が知らない面白いやつ  
がこんなにいるんだ、というのが、同人誌  
の楽しみだったんですよ**

## **小浜さんとファンジンの話をしました**

「SF 初心者カフェ ～同人誌の回～

supported by ドンブラコン LL」

2017/1/29(日)

於:「オタク・サブカル BAR Swing-By(スイング・バイ)」

<http://swing-by.tokyo/>

配信:日本SF大会チャンネル(ニコニコチャンネル)

<http://ch.nicovideo.jp/sfconch>

登壇者のひとりである七里寿子が再構成した。

文中は基本的に敬称略とした。

< > として配信中によせられたコメントを掲載した。

関係者各位には、誤認の指摘、追加の情報、また感想などがありましたら、お知らせいただきますようお願いいたします。

# ごあいさつ

<こんにちわー。> (運営)

<まもなくはじめます。> (運営)

小浜 始まっていますか？みんな聞こえていますか？ はい、こんにちわー！  
(拍手)

小浜 拍手がきたぞ、3回目にして初めてじゃないか？

七里 嬉しいな。

小浜 またぞろ、町田にある「オタク・サブカル BAR Swing-By(スイング・バイ)」をお借りして、日本 SF 大会チャンネル<sup>1</sup>SF 初心者講座 3 回目をお送りしております。もう 30 分くらい、しゃべって、30 分くらい前説をしておりましたけれども。

えー、同人誌の回ということで、今回お招きいたしました、スピーカー、七里寿子さんです。こんにちは。

七里 まずまず<sup>2</sup>、ますます。

小浜 アハハ。自己紹介してください。

七里 ばやばや<sup>3</sup>、ばやばや、えー、まず、ごぶさたでございます、七里寿子でございます。

小浜 ええと、7 年くらい前にやった、日本 SF 大会、宮城でやった<sup>4</sup>……。

七里 ううん、2006 年だから 11 年前。

小浜 そんなにたつか。

七里 そんなにたつですよ。

小浜 七里も年取ったなあ。

七里 ねえー、まあ、ばやばやばや、ってかんじなんですけれども。

---

<sup>1</sup> 日本SF大会チャンネル 日本SF大会の広報などを配信する WEB チャンネル。 <http://ch.nicovideo.jp/sfconch>

<sup>2</sup> まずまず(まんずまんず) 東北(宮城県北部・気仙沼地方など)のことば。意識:「どうもどうも」

<sup>3</sup> ばやばや 東北(宮城県北部・気仙沼地方など)のことば。意識:「大変だ大変だ」

<sup>4</sup> 第 45 回日本 SF 大会みちのく SF 祭ずんこん(2006 年)

こまつさきょう

小浜 つと、良い大会でした。小松左京<sup>5</sup>さんが最後に『日本沈没』6の講演をやったりした、ずんこん、というコンベンションで。

七里 宮城県の松島でおこなわせていただきました、日本 SF 大会の実行委員長をつとめました、七里寿子と申します。よろしく願いいたします。

小浜 はい。

七里はそれ以前から「ぬいぐるみさんの部屋」というような怪しげなものをやっ

ていて。七里 そう、SF 大会で、ぬいぐるみの、「ぬいぐるみ参加者の部屋」というのをやっ

ていてぬいぐるみを連れてきている人とか、ぬいぐるみが見たい人とか、ぬいぐるみ

が触りたい人とかがなんとなく集まってくる部屋です。

小浜 はい。あれは、ずーっとやってるの？ 今も？

七里 今もやってる。

小浜 どれくらい来てるの、あの部屋？

七里 多い時には、あの、新井素子<sup>7</sup>さんが来てくれると。

小浜 親分ですね。

七里 50 人くらいで。

小浜 はいはい(笑)

七里 ぬいぐるみは 100 体くらいになる、100 ぬみ<sup>8</sup>、と私は言ってるんですけども。

小浜 へえ。

七里 ぬいぐるみを含めると大人数、ふくめなくても結構な人数。あの、時間帯とか、他の企画とかのカラミもあって、少ない時には 3 人くらいの時も。

小浜 あはは、そうですか。

七里 ので、おひまがありましたら、息抜きにでも。「ぬいぐるみ参加者の部屋」は、いつでもみなさまをお待ちしております。

小浜 はい。

---

<sup>5</sup> 作家。筒井康隆・星新一とあわせて「御三家」と呼ばれる

<sup>6</sup> 小松左京著。1973 年の小説は第 5 回星雲賞日本長編部門受賞 『日本沈没 第二部』(谷甲州と共著 2006 年) 第 38 回星雲賞日本長編部門受賞 映画化(2 回)、テレビドラマ化もされた

<sup>7</sup> 作家。「グリーン・レクイエム」で第 12 回星雲賞日本短編部門受賞。ぬいぐるみ関連の作家としても、数多くのぬいぐるみと暮らしていることでも有名

<sup>8</sup> ぬいぐるみに使える助数詞としてサークル「ぬいぐるみしんぼうしゃ」が推奨している。これを使うと哺乳類・鳥類・昆虫・微生物などが混在していてもぬいぐるみをまとめて数えられる、便利な助数詞

七里 と、いうのを、1998年(の日本SF大会)<sup>9</sup>からやっています。

小浜 もう20年近くやってる。

七里 やってますねえ。おそろしいですね。

小浜 おそろしいねえ。今年もやるんですか？

七里 やる、かもです。

小浜 で、それはともかくとして、その七里寿子をですね、今回、スピーカーとしてお招きしたのが、これです。

### *SFファンジンコレクション(仮)カタログ 2015*

*SFファンジンコレクション(仮) 2015/7/1*

---

『SFファンジンコレクション(仮)カタログ 2015』！

### *SFファンジンコレクションカタログ 2016*

*SFファンジンコレクション(仮) 2016/7/1*

---

七里 こっちは、仮がとれてる、2年目は『SFファンジンコレクションカタログ 2016』。

小浜 あ、そうかそうか。

つまりですね、七里寿子が、去年<sup>10</sup>ぐらいから、今SFの同人誌ってのは何が出てくるのかと、いうことを、ちょっと収集して回ろう、というか情報を集約して回ろうと、思って、こういう、ね、同人誌に集約してみようということをやってきたわけですよ。

もちろん、その今回前提とするようなことはいわゆる同人誌っていうのは、まあ、みんなごぞんじであろうと。そのなかで、SFの同人誌っていうのがやっぱり、歴史があって今も作られているんだよと。特に日本SF大会とかに行くと、そういうのが売られていたりするんだよ。

というのがまあ、大会と結びつく部分なんだよということですが、七里がまとめたと思ったことについて、まずお聞きしたい。

なんで始めたの？

七里 たぶん、それは私が「伝承族」だからじゃないですか。

小浜 え、何？

---

<sup>9</sup> 第37回日本SF大会 CAPRICON 1(1998年)「ぬいぐるみの部屋」として開催

<sup>10</sup> 活動を始めたのは2014年の夏

<小浜さん、伝承族しらないんだ。びっくり。>

七里 『マップス』<sup>11</sup>にでてきたでしょう、まあ、ともかく、(七里は)記録に残したい人なんです。

話が少し戻りますが、2003年<sup>12</sup>にファンジン大賞<sup>13</sup>が行われて、それが、最後のファンジン大賞だったわけですよ。

小浜 ああ、そうか。はいはい。

甘えび(運営) ファンジン大賞って何ですか

小浜 ファンジン大賞というのがありました。

ファンジン、前年度のファンジンでしたっけ？

日本 SF 大会で毎年一回いわゆる、アマチュア活動、同人誌活動に対してスポットを当てようと、前年度に出た同人誌の中から、いろいろ部門を作って、おまえこれ偉かったね、といって選考委員がほめて、贈賞する、というのをずっとやっていたんだけど、それが2003年が最後になったと。

七里 2003年が最後になって、あ、10年間が空いているから、ここらへんでまとめておかないと、と思っちゃったんですよ。

小浜 なにか、アマチュア活動で、どういうことが行われているのかわかんなくなっちゃう、ということね。

七里 俺、こんなの作ったぜって、出せる場所が、そりやもちろん、「こんなの作りました(バーン)」ってやる場所は(個々には)あるけど、あちこちの人がいるのをとりまとめる場所が無くなっていたから、とりあえず、まあ、作ってみたらどうかなあ、と、思ってみた。

小浜 はいはい。

七里 作りなさいという声が聞こえた気がした。

小浜 いや、俺が言ったんじゃないよ。

七里 いやいや、小浜さんに言われたわけじゃなくて、どこからか、こう、ここらへん(上の方)から。

やしお 八潮 こずみれい あれでしょ、小隅黎さんが。

七里 いやあ？

小浜 柴野さんもまあ。

で、ちょっと内容を、紹介してあげてください。

---

はせがわゆいち  
<sup>11</sup> 長谷川裕一著。第26回星雲賞コミック部門参考候補作(受賞は『風の谷のナウシカ』(宮崎駿))「伝承族」は宇宙空間に浮かぶ巨大な顔として登場する  
\*ネタバレ\*記録を存在意義とする種族\*

<sup>12</sup> 第42回日本SF大会 とちぎSFファン合宿 T-con 2003 開催年(2003年)

<sup>13</sup> 1982年~2003年 第22回まで開催

七里 内容は、ですね、私が手当たり次第に集めた SF 同人誌のものを、リストです。だから、その、みなさん期待しているかもしれないんですが、表紙(画像のグラビア)とか、そういうのがあるわけじゃないんです。

小浜 載せようよ、それ。

七里 あったら、楽しいですよ。けれども、けれども！それは、おいておいて。

小浜 手間、かけられない？

七里 出来る範囲で作りました。ので、いろいろ、もれもあります。

小浜 うん。

七里 で、こういうのありましたよ、これ俺作ったんですよ、これ私みつけたんですよ、というのがあったら、教えてください。で、私にくれたり、あと情報だけでもくれたりすると、反映できるかもしれない、という、なんというか、発展途中のプロジェクトです。

小浜 うん、はい。

## 昔、というか 1990 年代のこと

小浜 むかしはね。昔はっていうと 25 年くらい一気に遡っちゃうんですけれど。

七里 25 年というと 1990 年くらい？

小浜 90 年くらいまでは、SF 大会に行くと、SF の同人誌ってみんなそろってたんだよね。でなくても、そのローカルコンベンション<sup>14</sup>というか、ミニコンベンションというか、SF セミナーであるとか、京都 SF フェスティバルであるとか、DAINA☆CONであるか、に行くと、みんな自分の同人誌持ってきて売ってたんだよね。

七里 今でも持ってくる人は持ってきますよね。

小浜 でもねえ、すっげえ減ってる。SF の同人誌っていうのが、本当にあれば、90 年に TOKON9<sup>15</sup>ってのがあって、その時のディーラーズルーム<sup>16</sup>って

---

<sup>14</sup> 日本 SF 大会を「全国大会」と呼ぶ場合、その対として地方で行われるものをローカルコンベンションや地方コンと呼ぶ。例として出されている京都 SF フェスティバル、SF セミナー、DAINA☆CON(ダイナコン・名古屋ファンダムの「大名古屋コンベンション」)などは現在も継続開催されている

<sup>15</sup> 第 29 回日本 SF 大会 TOKON 9(1990 年)

うか同人広場なんだけど、そこに行って俺、愕然としたんだけど、めっちゃめっちゃ減ってんの！同人誌が！で、最新号持ってきたってのも激減してたって記憶があつて。

で、まあ90年代ってのはそのころからコミケ<sup>17</sup>が隆盛していってて、例えば学生がSF大会に来るのに、お金がかかるっていうので、コミケにがんがん流れ始めた時期でもあるんですよ。で、SF大会めざして同人誌を作るってことがなくなっていて、そこからちょっと見えなくなっていってのもある。

あと、昔は徳間書店の『SFアドベンチャー』<sup>18</sup>っていうのに同人誌紹介コーナーっていうのがあったんだけど、それが、まあなくなり、アドベンチャーもなくなり、っていうことがあつて。あの、マスにむけて同人誌事情を紹介する媒体ってのは無くなっちゃったんだよね。

で、それまでは、そこをチェックしていたら分かったんだよ。あるいはSF大会行ったら分かったんだよね。

<TOKON9は、コミケと日程が重なったんでしたっけ？>

で、今のコミケを想像してくれたら良いんだけど売り手と買い手の直のコミュニケーションとかがなりたつた時代があつたんだけど、それが、90年代にいっぺんに失われて、その時に、代わりに出てきたのがネットファンダム<sup>19</sup>なわけですよ。で、あの、その入れ替わりについて、はじまる30分くらい前から<sup>20</sup>ずっとしゃべっていたわけですが、そういう興味もあるんだけど(笑)

その、例えば、それをチェックしたら同人誌では、どこにどんな奴がいて、何をやっているっていう、アマチュア活動の面白さが確認できて、自分もそれと関わりあいになれるかもしれない、という楽しさがあつたのが、なにか、手がかりがどんどん失われていった時期。っていうのがある。それを、あの、七里は、もう一回、回復したいのかな、って。

**七里** できたら良いですよ〜。

---

<sup>16</sup> 日本SF大会内で設けられるの同人誌即売会場(別の名称の場合もある)

<sup>17</sup> コミックマーケット。日本国内で行われる最大級の同人誌即売会。コミケットとも。開催回とあわせた略称でも表記される:C91(第91回、2016年12月(冬)開催)など

<sup>18</sup> 徳間書店発行のSF雑誌。1979年〜1993年発行

<sup>19</sup> 1993年 旧郵政省により日本におけるインターネットの商用利用が許可された。

<sup>20</sup> その他に青焼きコピーや謄写版の説明とか、発言の時は所属ファングループをつけて名乗るのが通例だったとか、もろもろを、客席も含めて雑談していた(今回は記録取れず)

小浜 うん。でも、昔はそうして媒体チェックしてたんだよね、いちいちお手紙書いて。

七里 手紙、便箋を出して、こう、手書き<sup>21</sup>、ですよ。

小浜 いちばん簡単なのは往復葉書なんだよね。

七里 往復葉書？！

八潮 あと、返信用封筒。往復はがきと同時期に。

小浜 どこで、あんたの同人誌を知りましたと。については、あの、ゆずってくださいと。どうしたら良いですかと。たいていの場合、あの、郵便為替、定額為替（小為替）で、いくらを送ってくれたら良いですよ、と（返事が来る）。そういう手続きを経て、あの、お金を送って譲ってもらう、というか、買うっていうのがあったんだけど。

昔は雑誌とか読んだら、連絡代表って言って、窓口になっている人の住所が載っていたわけですよ。でも、そういう文化が失われつつあるじゃない？

会場から 奥付ですね。

七里 あ、ファンジンの、同人誌の奥付にリアル住所<sup>22</sup>が載ってたって話？  
<平井和正はファンレターで病んでしまった>

小浜 そう、それで、さらにいろんなところで公開していて、俺に、連絡くれたら売ってやるよ、という役割の人がいたんだけど、そういうことも無くなっていき、逆に、コミケ的な即売会のような対面販売しかなくなってきた、という現実もあるにはあるんだけどね。なんかあの、いきなり歴史の違いから入ったわけですけども、良いのかな。

で、七里はこれは、具体的に同人誌売り場を回っていたり、友達がくれたり、したの？

七里 私の定点観測は、日本 SF 大会のディーラーズルームとあと、コミックマーケット、夏冬に行われる、いちばん日本国内で行われる大きいであろうコミックマーケットというイベントで、そこでこの前の夏まで SF というジャンル（独立ジャンルコード）<sup>23</sup>がありました。

小浜 無くなっちゃったんだよね。

---

<sup>21</sup> 前説で「ガリ版は一字一字手書きで作っていた」ことに驚かれたので、ここでも念のため

<sup>22</sup> 商業誌や書籍に著者の住所が記載されていた時代もある。

<sup>23</sup> コミックマーケットは活動内容で参加サークルがジャンル分けされている。ある程度の規模以上になると独立ジャンルコードが付与される。2016年8月開催コミックマーケット90まではSF関係は「ジャンルコード:620 特撮・SF・FT（評論・情報／ファンタジー）」として扱われていた。

**七里** 去年、2016年の冬(C91)から無くなりました。

昨夏(C90)まではあったのが無くなり、でも、だいたい評論のSFのところと学  
漫、会場のお若い方もご存じの学生漫画のところで、何件かSFがあるってと  
ころ(くらいにSF関係のサークルが配置されていました)。で、安心していたら、  
やっぱりだめで、《星界の紋章》<sup>24</sup>のサークルは、1日目の、小説ファンクラ  
ブだったり、明大<sup>25</sup>SF研さんは、創作の歴史のところをいたんだわ。さすがに  
2日目<sup>26</sup>は、私、しまったとも思わないくらい予想外だったので、創作の他のと  
ころだったらよんでたかもしれない、でも、歴史、歴史ね、と思いました。

で、来年とか次とかどうなるかわかりませんが、私のためにジャンルコードを復  
活してくれるといいなとは思いますが(笑)

<しかしこれは初心者向けのテーマではないのでは？>

<テーマについては突っ込まないで！笑@甘えび>

**小浜** でも、おもしろいよね、SFって評論にセグメント化されるってとても面白  
くて。

**七里** そうそう、評論の。私、ここ、使ってない申込用紙<sup>27</sup>があるんですけど  
も。

**小浜** はい、ん？

**七里** ここの、評論のところに「SF・FTの評論を含む」って書いてあるんです  
が、それなんで、できればここに寄せて欲しいという話になっているの、かな  
あ、コミックマーケット側では、と思います。

**小浜** でも、それはねえ、ある種やっぱり、感觸的に正しいところがあって、SF  
の同人誌ってまあ、創作やっているところはあるんですけども、翻訳とか書  
評とか今の感覚で言ったら評論に近い立ち位置だったりするので。  
でもSFの同人誌って、コンテンツありきで作られることがあまり多くないような  
気がするんだよね。

ひょっとしたらSFの世界で二次創作ってきわめて少ないんだよね。で、マンガ  
文化もきわめてちっちゃいんだよ

まあ……逆に言うと、マンガ文化の中のSFは大きいんだけど。

**七里** 小さくない、ある程度あるんだけど、それを、ひろうだけのリソース  
が私に無いので。

---

<sup>24</sup> 森岡浩之著『星界の紋章』(第28回星雲賞日本長編部門受賞)のシリーズ

<sup>25</sup> 明治大学

<sup>26</sup> コミックマーケットは開催日(通常3日間)ごとにジャンルや参加サークルが異  
なる

<sup>27</sup> 次回のコミックマーケットの申込用紙。頒布価格¥1,000

小浜 でもさ、マンガの話にしてもアニメの話にしても特撮の話にしても、それはSFになってありえるんだけど、おそらくそれを僕らは文章の形で、いろいろ意見表明していた、っていうのが多いってのは、ちょっと思いましたね。

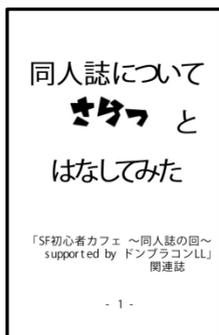
七里 はい。

小浜 さびしいな、って思いますが。

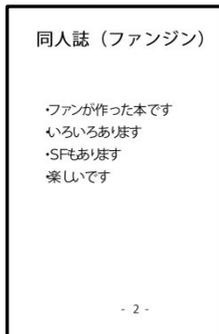
七里 さびしいなって思いますが、まあ、すごく増えたら考えなくもないよっていうのがコミックマーケットさんの見解でありましようことなので。

小浜 はい、で、まあ、七里が去年、今年と集めてきた、まあ、もっと前から集めてきたSFの同人誌というものを、はい、今回、みんなに紹介して欲しいな、ということ。

## 「同人誌について さらっとはなしてみた」



七里 その前に、この、同人誌とは何かというのを、5分コースで説明します。



同人誌、ファンジンともいいます。

- ・ファンが作った本です
- ・いろいろあります
- ・SFもあります
- ・楽しいです

今日は、そこを覚えて帰っていただければと思います。

### 会場（笑）

「「初心者」さんむけに「さらっと」説明していますので、解説不足な部分や、厳密ではない部分があります。」が、これをつきつめますと、いろいろなことが起こるので、それは、またの機会にいたしとうございます。

### 会場（笑）

同人（サークル） ≡  
サークル

同人（どうじん）  
同じ目的や趣味を持っている人。同好の人。  
デジタル大辞泉)

同人誌 ≡ ファンジン

ファンジン  
fan (ファン) + magazine (雑誌)  
からファンが集まって、評論・創作などを載せる雑誌。特にSF関係のものをいう。デジタル大辞泉)

- 3 -

同人（サークル）とだいたい同じ意味で、サークル、とよく言われます。同人（どうじん）というのは、「同じ目的や趣味を持っている人」で、その人たちが作っているのが、「同人誌 ≡ ファンジン」。「ファンジン」という言葉は、「fan(ファン) + magazine(雑誌)」から、つけられています。

いろいろあります、いろいろできます

印刷や製本に凝る  
こー本 手作業  
専門印刷所  
特殊紙 特殊印刷  
加工

好きなジャンル

グッズの作成

作り手と読み手の距離が近い

- 4 -

同人誌は、印刷や製本に凝ることができます。

コピー本、原稿をコピーして製本したのですが、このように、何かを貼ったり、何かを塗ったりできます。今のコピーはカラーもできますので、カラーもできます。切ったり貼ったりも自分でできます。かけられるだけの手をかけることが、自分の手でできます。

で、同人誌専門の印刷所や、同人誌を請け負ってくれる印刷所の中には、特殊紙や特殊印刷や加工などを請け負ってくれるところもあります。特殊な色で刷った、キラキラを載せたり、キラキラの紙に刷ったり、半透明だったり、というのを請け負ってくれたりするわけです。あと、切抜をしたりとか、においつきの紙であるとか、函を作ったりとか、というところが、商業誌に比べて、自分が決められる部分がとても多いので、いろいろできます。

小浜 (商業出版と比べると)コストを度外視できるからね。

七里 そうそう、俺が金を出すからいいんじゃないやあ、っていえるところがあります。

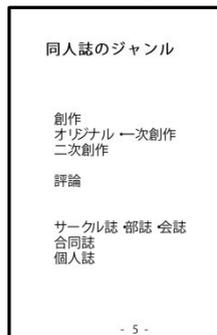
小浜 そうそう。

七里 で、好きなジャンルでできたり、それにあわせてグッズを作ったり、このごろはグッズのサークルとかもあるんですが。

で、あと、作り手と読み手の距離が近かったり。

小浜 対面販売ですから。

七里 対面販売ですからね、じゃあ今度書いてくださいよ、というのがおこったりとか、あとプロの人がアマチュアの立場として参加したりもします。



で、同人誌のジャンルとしましては、「創作」。

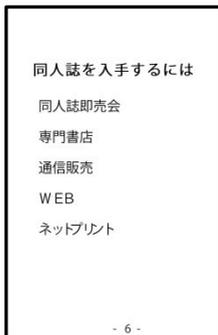
SF では小浜さんが言うにはどうやら少ないらしいんですが、二次創作というものもあります。

で、いまどきは普通の創作のことを「オリジナル・一次創作」といったりもするそうです。

「評論」いろいろなことにたいしてあだこうだと言ったりする、評論。というような分け方ができます。

別の見方で言うと、「サークル誌・部誌・会誌」SF 研のでありますとか。

あと、「合同誌」だれだれさんとだれだれさんと一緒に作ろうねというようなか。  
「個人誌」サークルありきということで、ひとりで作った場合に個人誌という場合もあります。



「同人誌即売会」などの対面販売で入手したり、いまどきは「専門書店」があるので、そちらのほうで同人誌を扱ってるところで買うこともできます。あと「通信販売」もあることはありますし、ネットを介した通信販売もこのころはあります。意外に広まらなかったのがWEB媒体で、小浜さんがいうように、WEBを経由した同人誌<sup>28</sup>ってあんまり、そんなに、残ってない感じ。

**小浜** でも、あれでしょ、最近同人誌もネット書店に、登録できるんでしょ？

**マスター雷門風太** ああ、できます。(kindle で配信中)

**甘えび** 最近 Kindle の KDP であれ、出してって、いうのも同人誌じゃ？

**七里** ので、そういう風な新しいプラットフォームもこれから増えてくるかと思えます。

Kindle の KDP<sup>29</sup>とか、pixiv<sup>30</sup>経由だったりとか。

**ぱぱりん(運営)** BOOK☆WALKER(ブックウォーカー)<sup>31</sup>とか

**七里** BOOK☆WALKERもですよ、電子販売とか、そういうところで、できると思えます。

<sup>28</sup> 個人ホームページ流行期にサークルのホームページも多数あり、同人誌的なコンテンツも存在した

<sup>29</sup> Kindle ダイレクト・パブリッシング ネット書店・通販会社の Amazon で電子書籍の自費出版ができるサービス。Kindle 電子書籍リーダーで読める

<sup>30</sup> 作品の投稿・閲覧が楽しめる「イラストコミュニケーションサービス」。マンガ・イラスト・小説などの創作活動の場ともなっている

<sup>31</sup> 電子書籍配信ストア及びビューアーアプリ。KADOKAWAグループの株式会社ブックウォーカーが提供している

小浜 「ネットプリント」って何？これオンデマンド<sup>32</sup>？

七里 ネットプリントはまた別で、今回も登録してみた（イベントおよび配信期間に合わせてネットプリントに『同人誌についてさらっとはなしてみた』を登録していた）んですが、コンビニで印刷できるものです。

小浜 ああ、そういうことね。

七里 ので、これは、（作成者が）WEBにアップロードした物をそのまま、うちのプリンタじゃなくて、（最寄りの）コンビニのプリンタで（読者が）印刷できる、ってしくみなので、やったことない人、やってみてください。普通のコピー機、頭のよいコピー機<sup>33</sup>がセブンイレブンに置いてあるので、そこでできます。

小浜 AKB<sup>34</sup>の話して良い？

七里 AKB？！

会場 （どよめき）

甘えび いきなりとんだな

小浜 この前、年末のNHK紅白選抜<sup>35</sup>ってあったじゃん、さや姉<sup>36</sup>が1位とった。あれで、なんと、コンビニで応援チラシがハードコピーできますって。

七里 そう、それ！

小浜 で、100円とか取ってるんだよね、あいつら。AKS<sup>37</sup>は。

七里 あ、それは、公式だから、使用料とか載せてるんですかね？

小浜 そう、だからゆいはん<sup>38</sup>を応援したい奴はこれで、なんかチラシをプリントアウトして貼れと。布教用とか言って、6分割できるものを切って配れとか、いや、すげえ商売してるなと思って、感心したよ。

会場（笑）

七里 そうというのは、ちゃんと公式のほうに（権利金とか？）上がるんでしょうけれども、これは、私が（コンビニエンスストアの無料サービスを）借りているだけなんで、私のほうにはお金は入ってこないんですよ。

---

<sup>32</sup> オンデマンド印刷・出版。注文ごとに印刷・製本を行う出版サービス。小ロット（場合によっては1部のみでも）発行が可能

<sup>33</sup> 店舗により小冊子印刷などの機能がある機種も設置。自動的に中綴じ印刷の面付けをして印刷してくれる

<sup>34</sup> AKB48。アイドルグループ

<sup>35</sup> 2016年年末の「第67回NHK紅白歌合戦」番組企画として実施された「夢の紅白選抜」

<sup>36</sup> 山本彩（やまもとさやか）NMB48 チームN

<sup>37</sup> 株式会社AKS AKB48などの運営管理会社

<sup>38</sup> 横山 由依（よこやまゆい）AKB48 グループ総監督（二代目）

八潮 でも、印刷費は払わなきゃいけないんだよね。

小浜 金はそうか、ユーザーが払わなきゃいけないのか。

七里 こっちが、ローソンとか、セブンイレブン以外のところでもやってる(ネットワークプリントサービス)んですけども、ちなみにこれは、私個人についている番号なので、ここと同じ番号(E63WG2KLPP)で、私がやっている、SF系イベントを楽しむメルマガ<sup>39</sup>が隣にあるので、それも印刷できます。

小浜 なんかいろいろやってるねえ、七里は。

七里 で、これ1枚につき(A4だと)20円くらいかかるので、普通のコピーよりは高くなりますが、自分以外の、番号さえ共有すれば、ということなので。

小浜 あー、面白いね。

七里 だからその、プラカードやサッカーの応援にも使ったりするらしくて。

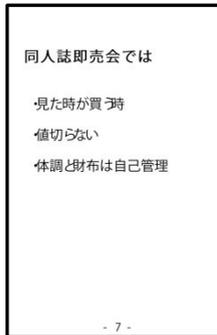
(会場から)川合 安全保障法案反対の時もやりました。

会場 (笑)

七里 そうそう、デモの時とかにも、みんななんで同じようなの持ってるんだろうな、と思ったら、配布されていて。

小浜 それ持って、国会に行って反対って、それで怒られるっていうやつね。

七里 っていうのが使えるんじゃないかと思うので、興味ある人はやってみてください。



七里 即売会に参加する時の注意点です。

会場 (笑)

小浜 これね、値切ってはいけません<sup>40</sup>っていいおかしいよね。いるんだって。

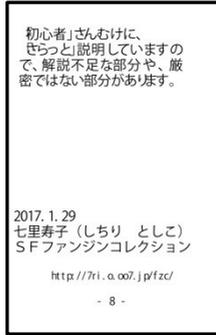
七里 私も値切られたことないですよ。

何らかの理由<sup>41</sup>があってつけている値段なので、値切ってはいけません。

<sup>39</sup> eSFe Letter (SF系イベントを楽しむ会からのおたより)ほぼ週刊で発行 無料 くわしくは <http://esfe.web.fc2.com/>

<sup>40</sup> フリーマーケットなどの影響ではないかとも言われている

なので、まあ、楽しんできてね、という話です。  
ということで、ちょっと長くなりましたがこんなかんじで。慣れたらいろいろ試してください。



## 昔、というかファンジンということ ばが生まれたころのこと

小浜 あのね、同人誌交換ってのがあったよね。

七里 ありますね。

小浜 うちの同人誌あげるから、ちょうだい、みたいな。

七里 今でも、コミックマーケットでブース<sup>42</sup>の隣になったところが、本日の新刊ですのお納めください、と隣に手渡す、というような。あ、こちらも、というような。(会場の若年齢層に)今でもやっています？

若手 やってます。はい。

七里 これがね、やっているところと、やってないところがあるみたいで。

ぱぱりん 島<sup>43</sup>によってもある。

<物々交換ですかー>

---

<sup>41</sup> たとえば、判型やページ数が同じでも1冊あたりの印刷費用は諸般(発行部数など)の理由で異なる

<sup>42</sup> 即売会で各参加サークルに割り当てられる販売スペース。コミックマーケットだと90cm×90cm(長机半分)

<sup>43</sup> 即売会で販売ブース(机)が並んでいるひとかたまり

若手 最近は少なくなってるって聞きますけど。あと、同じジャンルの中でやってたりとか。

<歴史ジャンルで出てたころは交換してたなあ。>

八潮 大手とお向かい、とか。

小浜 それ、昔、商業誌の世界でもあってね。

七里 献本ってやつ？

小浜 交換広告ってのがあった。うちの雑誌があんたの雑誌の広告載せてやるから、あんたの雑誌に載つけてね、とか。70年代に非常に普通にやられてた。部数とか、そんなこと気にしない場合ですよ。で、まあ、そういうことは、商業もアマチュアもあまり変わらないということですね。

で、補足しておくでファンジン(↓)、という言葉、ファンジ(↑)ン、とも発音するんですが。

甘えび どっちが正しいんですか？

小浜 さあ？

会場 (笑)

小浜 でも、これっていうのは、アマチュアがファン、なわけですよ。で、ジンっていうのがマガジンのジン、さっき説明があった通りなんだけれど。これに対抗する概念としてプロジンってのがあって、これが商業誌なわけだけど。で、その間に位置するものがあって、これ、半商業誌というんだけど。

七里 ハン商業誌？

小浜 半分商業。半商業誌。

80年代前半に、例えば、当時、異常に専門的なことを言うと、総会屋系雑誌の撲滅みたいな時期があったり、あとは80年代にISBNが導入されることがあった時代なんだけれど。それが、あいまいだった時期ってのがあって。

<反商業誌連合>

今回チラシ<sup>44</sup>に載っている『綺譚』<sup>45</sup>っていうのも、そういう、あの、雑誌だったり、したんだよね。

七里 これ、同人誌扱い？

小浜 いや、同人誌では、ないです。これは、書店で売られていました。

で、『奇譚』って、奇譚社って、栗本 薫<sup>46</sup>さんとも関係が深いワセダミステリクラブのOBがやっていた、プロの書き手が、エッセイとか集めてやっていた、まあ、同人誌っちゃ同人誌でありまして。

<sup>44</sup> イベントチラシのレイアウトはマスターの雷門風太。イベント限定オリジナルカクテル「ドンブラコン LL」「綺譚」「宇宙塵」の告知も掲載

<sup>45</sup> 1979年～1983年 通巻5号

その、半商業誌社会で言うと、『SFイズム』<sup>47</sup>とか『SFの本』<sup>48</sup>とかってというのが昔ありまして、これもそういう中のひとつ。

七里 『SF イズム』は同人誌？ 半商業誌？

小浜 半商業誌。ただ、三木書房がついていたのでね。現実にはいえないんですけども。

それで、立派な同人誌を書店で売るっていう時代があったんだよ。

七里 どういう書店でですか？

小浜 というのって、実は、70年代とか80年代半ばには、普通の本屋が、同人誌を置いてたんですよ。

80年代いっぱいでも、同人誌を持っていったら賭け率は非常に低いんだけど、売ってやるよ、とっておいてくれた店があったの。で、1970年から80年代にかけて、神田の三省堂本店で、エスカレーター上がった2階の一等地に、SFの同人誌がずらーっとあったの。

こう、いわゆる今でいつラ見せですよ。こう、差すところに、ずらっと。

七里 雑誌棚みたいな。

小浜 そこで、主要な同人誌は、三省堂本店で買ったのよ。

七里 へええ！

<今でも漫画専門書店では委託販売してますよね>

<お茶大 SF 研の『コスモス』も神田三省堂で売っていたな。@バラ宮崎>

小浜 これはね、ビリビリ酒場<sup>49</sup>で、亀和田武<sup>50</sup>さんたちが70年代の「一の日会」の思い出話したイベントがあつてね、その時に行ったら、亀和田さんはなんと、あの、書店で『宇宙塵』買ったのが最初だと言ってた。

小浜 名古屋の、名古屋じゃない、神戸のジュンク堂、今のジュンク堂が全国展開する前に、三宮に拠点があった時に、俺は81年に初めて行って、そこで『宇宙塵』つてのを本屋で買うわけですよ。

---

<sup>46</sup> 作家。評論家としての筆名は中島 梓<sup>なかじまあずさ</sup>。星雲賞日本長編部門受賞の<グイン・サーガ>シリーズは著者を交代しつつ継続刊行中(2017年4月現在の最新刊141巻『風雲のヤガ』五代ゆう著)。

<sup>47</sup> SFイズム 1981年～1985年 通巻16号 ミーハー系SF雑誌

<sup>48</sup> SFの本 1982年～1986年 通巻9号 硬派SF雑誌

<sup>49</sup> 参加型トークライブ“Live Wire”の会場となっていた新宿のライブハウス。現在は「Live Wire HIGH VOLTAGE CAFE」「BiriBiri 寄席 マイクロシアター電撃座」として営業

<sup>50</sup> 作家、編集者

だから、あの、同人誌ってのが書店で買えた時代があって、だから、本当にちっさい書店に同人誌のスタンドというのがあって、そこで、たとえば、私の詩集、買ってくださいみたいなのがあった。当時からみんな、印刷とか造本とかこつてて、みんなきれいで、かわいいんだよね。

七里 大きさはどんなかんじです？

小浜 大きさは、まあ A5 版、ないしそれより小さい。こんな 70 年代のミニコミブームってのがあったの。

ここで「ファンジン」という言葉に戻るんだけど、なんで、こういう言葉を使ったかとうと、もちろん、アメリカの SF ファンダムから始まった言葉ではあるんだけど、なんでぼくらは同人誌といわなかったか、ということを書いておかなきゃいけない。

というのはなにかって言うと、70 年代いっぱいぐらいまで、同人誌というのは「地方文壇」だったのね。それぞれの都道府県に地方文壇というのが存在して、まあ、純文の地方組織なわけですよ。いわゆる文芸同人誌、ですよ。

七里 俳句を作りました、とか、そういうかんじ？

小浜 それは、結社<sup>51</sup>って言って、またべつなんだけどね。

七里 結社。同人結社。

会場 (笑)

小浜 あの、「同人誌」ってというのはそういうものの、文学の用語だったので。<地方文壇。><大いなる助走の世界ですね>

それは 50 年代、57 年に柴野拓美さん<sup>しばのたくみ</sup>って人が『宇宙塵』って同人誌っていうか、同人サークルを立ち上げるときに、ぼくらはそうじゃなかった、少なくともぼくはそうではなかった、という言葉があり。

<秘密結社株式会社>

62 年に『宇宙気流』って第二のメジャーな同人誌がはじまった時にも、これは言えるし。

わかりやすいのが、夢枕獯<sup>ゆめまくらばく</sup><sup>52</sup>さんがね、あの人は 70 年代の半ばに出てくる人なんだけれども、あの、同人誌、いわゆる文芸同人誌に所属した時にもものすごい温度差を感じた、と。

きみにとって原体験とは何かね、と必ず聞かれると。さっぱりわかんない。原体験、原風景か。

七里 ああ。

---

<sup>51</sup> 俳句結社などの活動が現在もみられる

<sup>52</sup> 作家。『上弦の月を喰べる獅子』で第 21 回星雲賞日本長編部門受賞。「上段の突きを喰らう猪獅子」で第 22 回星雲賞日本短編部門受賞

小浜 原風景って何かと聞かれると。その話をきかれると、あなたにとって一番つらいことはなにかと聞かれると。

七里 私小説的な。さらけだせといわれる、と？

小浜 そうそう。で、それを、小説にすることが文芸だって。で、獏さんは、バカかっていって、SF に合流するわけですよ。もともと SF ファンだったわけだし。

小浜 っていうふうなことがあって、いちばんわかりやすいのは筒井康隆<sup>53</sup>さんの『大いなる助走』<sup>54</sup>っていうのがいまでも手に入ると思うんですけど、も！ここで、中央文壇と地方文壇として、パロディとして語られる世界ってのがあって、(SF の「ファンジン」は)それとは違うもんだっていう認識は、おそらく SF ファンの中にあっただよね。

で、自分たちのコミュニティ、自分たちの世界でSFの活動をする、今で言ったらサブカルの一ジャンルでしかないんだけど、っていうのを自分たちの文化だったというので、SFの世界では積極的に「同人誌」って言葉は使わなかった時代があった。で、それが、おそらく80年代いっぱいまで、僕らはファンジンです、同人誌ではありません、って。

ところが同人誌って言葉が文芸同人誌ではなくて、いわゆるサブカル系の同人誌ってのがメジャーになっちゃったわけですよ。

七里 あれですかね、コスプレの話を「SFファン交流を考える会」<sup>55</sup>でしていた時に、普通にSFの例会をしたときに、SF好きなんですって来た人が、古代君<sup>56</sup>つきや、いわないんですよ、ってことがあったって。

小浜 はい？ なに？

七里 古代君しかいわない。だからヤマトみて、SFの、活動をしたくなって、っていう。異文化がすごく流れ込んで来って。

小浜 そりゃ、でも、コスプレのは、また、ずれるよ。

---

<sup>53</sup> 作家。『霊長類南へ』で第1回星雲賞日本長編部門受賞。「フル・ネルソン」で同日本短編部門受賞。小松左京・星新一とあわせて「日本SF御三家」とも呼ばれる

<sup>54</sup> 『別冊文藝春秋』に1977年から連載。1979年出版。2017年4月現在電子書籍で入手可

<sup>55</sup> テーマに毎月開催されているSFイベント。現在は「SFファン交流会」として継続されている。 [http://www.din.or.jp/~smaki/smaki/SF\\_F/](http://www.din.or.jp/~smaki/smaki/SF_F/)

<sup>56</sup> 『宇宙戦艦ヤマト』の登場人物古代 進

コスプレ自体が。だってヤマトの頃って、日本 SF 大会でコスプレがはじまった時期、だから。

ヤマトのころいわれたのが、ヤマトでSFに目覚めた人とかね、いたわけですよ。ぼくらはSFを知っていたのでヤマトもSFだな、って、思っただけで。そもそも松本零士<sup>57</sup>的なSF漫画ってのはそれ以前に成立、というか一派をなしていたので、特に抵抗もなく、普通にSFのカテゴリとしてみていたんですが、この時に初めて出会った人たちがいて。

あの、まあ、『トリトン』っていうのもあるんだけどね、『海のトリトン』<sup>58</sup>

**会場** (笑)

あの、アニメで観て、これがSFだと思っちゃった人たちが、——まあ、それでSFの世界に出入りするんだから、SFもえらかったよね——なんだけど、本当にその、アニメの話しかしないやつが増えてきて、ちょっと待てと。俺たち、ヤマトの話しかしないためにあんたとつきあってるんじゃないんだよ、っていうのがあって。

というのが、俺自身は全く体験してないんだけど、ということが、そここであったという話は聞いている。

**七里** それは、もうちょっと前の？

**小浜** ええと、70年代、ヤマト74年でしょ？だから、ブームになって『さらば宇宙戦艦ヤマト 愛の戦士たち』でブレイクするのが76年とかでしょ、ちがうか、78年だな。だから、そこからあと、『機動戦士ガンダム』(1979年放送開始)でも同じことが起こり、『スター・ウォーズ』(1977年)でも。超メジャーなコンテンツがブレイクした時に、その話しかできないやつらというのがいて。

マンガは、まあ、そうでもなかったんだけど。特撮にもその文脈はあったんだけども、やっぱり、アニメってのが、そのSFを上書きしちゃって、みたいな、ことが、先にある、んですよ。

だから、コスプレの文化ってのは、おそらく90年代なかば以降に一般化したんだと思うので。主にコミケとかでブレイクするわけじゃない？

だからちょっとズレがあるとおもうよ、古代君の話とかは。

<DAICON以前かな？>

<むかし現代用語の基礎知識で、ファンジンとは文芸同人誌よりミニコミ誌に近いという説明があった(記憶頼り)>

---

<sup>57</sup> マンガ家。ハヤカワ文庫の表紙イラストを担当したこともある。『宇宙戦艦ヤマト』で第6回星雲賞映画演劇部門受賞

<sup>58</sup> 手塚治虫の漫画。アニメ化された。日本SF大会で初めてコスプレされた作品といわれる。(第17回日本SF大会 ASHINOCON(1978年))

甘えび いまちょっと、コメントのほうで、<むかし現代用語の基礎知識で、ファンジンは文芸同人誌よりミニコミ誌に近いという説明があった>と。

小浜 俺、言ったじゃん！ 今、だから。

で、それはSFだけの世界の話じゃなくて、今日持ってくるの忘れたんですけども、そういう、ミニコミ系同人誌を網羅した研究カタログっていうのがあって、そこで、もやっぱりいわれることで、かれらは、「ジン」と呼んだ。

これはね、新潟にいるあぶとくって奴もね、彼はジンってすぐいうんだけど、いわゆる雑誌的な物、ミニコミ的な物もジンと呼ぶ。で、商業誌だって、基本的には運動体なわけだから、ある種の。そういうことに対する、コミュニティ的な求心力を夢見たことばだったのかもしれない、と思うわけですよ。

特に70年代、学生運動が終わった後、政治的主張ってのがいっぺんに失われていくわけですよ。四畳半フォークみたいなものがでてきて、ニューミュージックに変わっていく時期があって、政治活動ってのが若者文化から無くなっていく中で、サブカル的なものがぶわっとでてくるんだよ。そういう時代と、足並みをそろえていたように、俺は、思う。

っていうのは、ついついSFの歴史を語るとSFの同人誌だけを、こう、セグメント化して語りがちなんです。もうすぐに、その話に移りますけれども、『宇宙塵』から始まるファンジンの歴史っていうのを語るんだけど、でも、そんなことはなくて、やっぱり、ある種のコミュニティを選んだ活動だったわけですよ。もっと違う人生あったかもしれないですよ、俺だって！

会場 (笑)(拍手)

小浜 だけど、この世界がいちばん居心地が良かったというか、得意だったわけで、やってきて、いろんなサブカルっていうのがあるのが本当だと思うの。バンド文化<sup>59</sup>みたいな盛り上がりも、あったわけだし、もっといろいろあったわけだけど、そういうのと隣接していたと、僕は論じたいんだよ。いわゆるSFファンジンというものを。

もちろんSFファンジンが80年代中ごろまではすべての情報が共有される時代というのがあったので、たとえば、その、この同人誌の影響を受けてこれをつくりました、というか、縦の影響ってのは絶対あったんだよ。

<わかるわかる>他所のファンジンに憧れて作る>

小浜 俺だって、学生の頃同人誌作ったころは、先行する同人誌にすごいあこがれて、あの、当時は、グループごとだったの。

七里 グループ？

---

<sup>59</sup> 『イカ天』。放送期間：1989年2月～1990年12月

小浜 地方のグループが自分たちの会誌として同人誌を作っていたわけですよ。今みたいにさっき七里が言った、ユニット的な同人誌とか、個人っていても、やれることはたかが知れていて。

<昔のファンジンとはとにかく労働集約的だったからなあ。>

七里 その当時、個人ってなかったですよ？

小浜 いや、あったあった。ガリで、ペラー一枚とかね。

甘えび ガリ！

会場 (笑)

小浜 ガリ版<sup>60</sup>で。あるいは、コピーのほら、両面印刷して折って4頁とか。

七里 こういう形<sup>61</sup>でございますね。

### まねきねこ通信

まねきねこ SF ファンクラブ有志 2016/10/1

---

小浜 そうそう、小奇麗だけどね。

七里 綺麗だけどね。

小浜 これが手書き文字だったり、した時代ってのがあって、でもやっぱり、それは個人の名刺代わりにコミュニケーションをとるためのものだったりしたんだけども。

あの一、なんだ。

七里 SF のファンジンだけでなく、ひろがりというか、つながりがあったというお話で。

小浜 はいはいはい、だから、その、SF の中の歴史で語るのは大事なことで、それは語らなければいけないことなんだけれども、やっぱ、その伝統ってというのは、90年代に入って断絶した感じがあってね、で、だから、今回のテーマのように、同人誌っていうものがあって、その中での SF というセグメント、という形で語らなければいけないという時代にいつの間にか変わっちゃっている、と認識しているんですよ。

八潮 実はその辺の話になると、米澤さんの話とか。

小浜 はいはいはい。

七里 今日ほとりあえず。今日はいいや。

会場 (笑)

---

<sup>60</sup> 謄写版印刷

<sup>61</sup> A5版4頁(A4版を両面印刷し二つ折りにしたもの)また、手元のプリンターで印刷したためカラーになったが本来はモノクロ

小浜 うん、そういう話もちよっとしたいなと思いますけれども。

七里 そうですね、聞きたいですね、いろいろなところから。

小浜 そうね。そうね。あの、いろんなカテゴリで。

ただね、こういう話になると自分の興味に引き寄せて語るやつが多くて。あんま公平にならないんだよね(苦笑)

甘えび 知らないんでしょう。

小浜 俺ね、昔、アニメ出身のとある女性と話をしたことがあって、その人がファンダムについて語りたがるんですよ。日本のファンダムは東映動画から始まったんですよ、とか言います。ふざけるなっていう話、じゃない。

会場 (笑)

ところが、アニメの世界を、一番最初に、アマチュアっていうか、ファンを、なんていうの、まとめたっていうのは、「東映動画友の会<sup>62</sup>」というのがあって、それがはじめなんだよね。

七里 公式ファンクラブ？

小浜 そうそう、公式ファンクラブ的な内容でね。それ、面白い流れで、アニメの話とかもしたいんだけど、で、なんか一所懸命、そこから始まったファンダムだー、いや、それは、アニメの話でしょ、というようなことだったり。

小浜 あと、特撮ファンダムっていうのも、まあ、あの、開田裕治<sup>63</sup>さんと氷川竜介<sup>64</sup>さんの「怪獣倶楽部」<sup>65</sup>っていうのがあって、これがあの、なんだったのかっていうのは、その世界では当然のように語られているんだけども。というのは、ちょっと非常に興味があって、怪獣倶楽部っていうのはなんだったか、っていうのを知りたいな、って。それはたぶん、コミケのおける米澤さんたちの『迷宮』っていう、マンガ評論、同人誌の時代に近いんじゃないだろうか、と思うんだけども。

えー、まあ、そういう話ができるチャンスがあったら良いんですが、ボクはマンガにもアニメにも全く詳しくないのでですね、あんまり資格は無いのかもしれない。

---

<sup>62</sup> 東映アニメーション・ファンクラブ。製作プロダクション主導の公式ファンクラブ。1977年発足

<sup>63</sup> イラストレーター。「怪獣絵師」として知られる。第28回星雲賞アート部門受賞

<sup>64</sup> アニメ・特撮研究家

<sup>65</sup> 特撮研究団体。1975年発足

# ファンジン紹介色々（七里寿子セレクション）

小浜 それで！ 七里さんが、今日持ってきてくれた、いろんな同人誌を紹介する、というコーナーに、後半行きたいと思います。

七里 えーと、そんなに、これは無いよ、見たことないよ、というのはないかなってところなんです。

小浜 俺、でもねえ、三分の一くらい知らないよ。うん。

小浜 いきましょう。七里が解説して、俺が突っ込み入れる。お前紹介間違ってるよ、とか、そういうこと言う。

**宇宙塵 199 宇宙塵 2005/6/30**

---

七里 じゃ、はい！『宇宙塵』です。

小浜 『宇宙塵』です。1957年創刊、日本最古のSF同人誌でありまして、ちりともいわれます。ウチュウジンっていうのは最初、いちばんさいしょ、同人誌作る時に人だったんだよね。

七里 ヒト？ 宇宙の人の宇宙人？

小浜 人。スペースマン。エイリアン。で、それを、印刷屋に原稿入れる直前に、その、主催だった、とても立派だった、日本SFファンダム<sup>66</sup>の父と言われしほのたくみる、<sup>67</sup>柴野拓美さんっていうひとが、ヒトよりもちりがかっこいいな、って。これがひとだったら、もうつぶれてるよね。

会場（笑）

という、200何号<sup>68</sup>をもって、3、4年前にもう、おわりを宣言した同人誌なんですけれど、日本の『SFマガジン』<sup>69</sup>と同じに、SF界を動かした同人誌であって、全盛期には1000部くらい作ってたんだよね。

---

<sup>66</sup> ファン活動するひとびと、その一群。fan + kingdom からとも、fan + dom（接尾辞）ともいわれる

<sup>67</sup> 作家。第41回星雲賞特別賞受賞。翻訳家としての筆名は小隅黎。『リングワールド』（ライイ・ニーヴン作）で第10回星雲賞海外長編部門受賞

<sup>68</sup> 最終号は204号（2013年）

<sup>69</sup> 早川書房発行のSF雑誌。1959創刊。SFファンの中で「マガジン」という場合は、だいたいこの「SFマガジン」をさす

<いきなりトリビアに突入>塵>

七里 2005年の199号というのを、たまたまもってきたんですが、持ってきてあれ、と思ったのが、その当時の、第87号の『宇宙塵』ではこのようなファンジンのお話をした、とかいうのが、再録されてたんですよ。

小浜 (この号には)むかし、柴野さんがやった同人誌レビューっていうのを、あの、復刻したっていう頁があって。はい、これはね、『宇宙塵』っていうのが、日本のSFの同人誌のターミナル的な位置づけを果たしてですね、主催の柴野さんが、非常に几帳面な人で、いろいろな同人誌が送ってくるのを、全部いちいちコメントしてたのね。だから、この、『宇宙塵』の同人誌レビューのコーナーが、ひどい時は20頁くらいあって、それで、もう、ここで、とりあげて、コメントしてもらってのが、全世界の、全世界じゃない(笑)全日本のSFファンのあこがれだったのよ。俺は何行コメントしてもらった、って。

甘えび 行!

小浜 行を競っていた、という。

会場 取り上げる冊数が多いから。

八潮 それこそね、言ってもらえた、というだけで。

小浜 『宇宙塵』っていうのは基本的に総合誌で、創作、評論、翻訳、エッセイって、すべててんこもりだった雑誌であって、創刊のころっていうのはSF界のオピニオンリーダーだったわけですよ。そしてまた、柴野さんがこれを新聞社に送るわけですよ。そこでけなされると、言論の世界に影響があるわけですよ。

で、それに、むかつとして怒ったのが福島正美<sup>70</sup>だった。

## 宇宙気流 No.88 SFM同好会 2014/12/18

---

七里 そして、それで、『宇宙気流』の話に行きます。

小浜 あ、『宇宙気流』っていう、また、これがですね、1962年に日本SF大会の第1回<sup>71</sup>っていうのが開催されて、その第1回SF大会っていうのが、実は、この『宇宙気流』の発足の会合を兼ねていたんですよ。「SFマガジンファンクラブ」というのをたちあげるぞと、いうのをはじめて。

七里 書いてありますね。

小浜 実はその時の発起人になったのが、きだじゅんいちろう紀田順一郎さん、という、非常に有名な書誌研究の人。博識な、ミステリや幻想文学でも有名な。それと、脚本

---

<sup>70</sup> 作家、編集者。『SFマガジン』初代編集長

<sup>71</sup> 第1回日本SF大会 MEG-CON(1962年)

家で有名な、SF でいえばですね『ふたり』<sup>72</sup>という赤川次郎の原作の、アレを書いた桂 千穂さん、このふたりっていうのが、ある日、柴野さん宅に行くわけですよ。柴野さん、日本 SF 大会っていうのやりましょうよ、って。だから、柴野さんがワールドコンというものを知っていて、日本 SF 大会をスタートしたとは必ずしも言えないんじゃないかと。

で、このふたりは、すぐ、すつといなくなっちゃう。で、あの「SF マガジン同好会」(SFM同好会)というのが発足して、そのあと、「一の日会」ってね、御茶ノ水で、喫茶店に1のつく日に集まろうと。

会場 渋谷。

会場 渋谷。

小浜 あ、渋谷か、渋谷で、1のつく日に集まろうと。1日、11日、21日、31日、と、1日が連続していたらふつか、連荘だったんです。

甘えび 連荘でもやってたんだ。

小浜 やってた。

(会場から)御前 <sup>みさき</sup>なんで1のつく日にしたかっていうと、31日と1日と、ふつか続けて集まれるからと。

<御前せんせいの声が聞こえる。>

甘えび そこが、理由なんだ。

小浜 その会合も、始めたって流れにつながっていくんですけども。

七里 それは、カスミ<sup>73</sup>?

小浜 それは違うでしょう

八潮 79年か8年か9年くらいから、土曜日になっちゃったんですよ。

小浜 毎週土曜日。

この間もね、この『宇宙気流』が、SF マガジン同好会ってものが無かったら、ちょっとそらおそろしいよね、って話になって。

『宇宙塵』からは作家がすごい出たんですよ。あるいは『SF マガジン』に連絡があったら、ちょっと同人誌紹介するよ、みたいな流れがあって、たとえばね、あれね、山田正紀<sup>74</sup>さんだったんじゃないかな、SF ファンで SF 小説書きたいって時に、SF マガジンに大胆にも電話したの。

---

<sup>72</sup> 1991年 監督:大林宣彦

<sup>73</sup> 「宇宙気流のページ」によれば、会場(喫茶店)は ロン(新宿)1962年→カスミ(渋谷)1963年→ノーブル(渋谷百軒店奥) 現在は美祿亭(+竹子)とのこと

<sup>74</sup> 作家。『宝石泥棒』で第11回、『機神兵团』で第26回の星雲賞日本長編部門受賞

そしたら、電話に出た人が——きつと、南山宏<sup>みなみやまひろし</sup> 75 だと思っただけど！——。

会場 (笑)

『宇宙塵』っていうのがありますよ、って紹介されるとか、そういう行き来があった。逆に、柴野さんが受け取った原稿を、いや、これちょっと良いんじゃない、っていつて SF マガジンに渡すとかね。っていう関係性があったのですよ。で、『宇宙気流』っていうのは、どっちかという、研究家や翻訳家をたくさん輩出した団体で、親分だったのが伊藤典生<sup>いとうのりお</sup> 76 さん、で。

七里 この号にも書いてますね。

小浜 あと、いろんなプロも合流してるんですけども。本当にアマチュアだけで終わった人もたくさんいるんですが、あの、たとえば鏡明<sup>かがみあきら</sup> 77 さんであるとか、横田順彌<sup>よこたじゆんや</sup> 78 さんであるとか。

八潮 森下一仁<sup>もりしたかつひと</sup> 79 さんとか。

小浜 森下さん、は、でも、そんなに、ここは大きくないんじゃないかな。あのお、っていう人たちが、毎晩毎晩、麻雀<sup>か</sup> 80 していたという。

会場 (笑)拍手

七里 ちなみに、これは、2016 年の第 88 巻号で

小浜 はいはい、これはね、『宇宙気流』ってのは、70 年代の半ばに一回とだえるんだけど、その時の幹部、まあ幹部っていうと適切じゃないんだけど (笑)世の中の的には幹部ですよ、林義隆さんというお医者さんがいて、その人が、平井和正<sup>ひらいかずまさ</sup> 81 の、『ウルフガイ』シリーズで、リンセキリュウ(林石隆・リースールン)っていうかっこいい人がでてくるんですけど。

会場 あれじゃない、超革中。

75 作家、編集者。『SF マガジン』2 代目編集長

76 翻訳家、アンソロジスト。「星ぼしの荒野から」(ジェイムズ・ティプトリー・ジュニア作)で第 31 回星雲賞海外短編部門受賞

77 作家、評論家。『本の雑誌』に「連続的 SF 話」を連載

78 作家、明治文学研究家。『SF マガジン』に「近代日本奇想小説史」を連載

79 作家、評論家。「空想小説ワークショップ」の講師をつとめた

80 麻雀は社交ツールとして非常に重要だった

81 作家。ほかに『幻魔大戦シリーズ』など。第 35 回日本 SF 大賞功績賞受賞

小浜 ウルフガイにも出てくるよ。最初は超革中<sup>82</sup>なんだけども、まあ、まあ、超革中よりも、ウルフガイのほうがとおりが良いと思って言っただけなんですけども。で、この名前だけモデルになった人で、本人はわりともっさりした人なんですけども。

会場 (笑)

小浜 彼が現役を引退して、シルバーになって、またはじめた、と。

七里 あ、そういうことなんですね。

小浜 最近の、同人誌は、シルバーが、がんばる！

甘えび 若くない(笑)

七里 ちゃんと奥付に郵便振替の番号とか入ってます。

小浜 うん。

### **SFファンジン 第59号 (復刊5号)**

**全日本中高年SFターミナル 2015/08/14**

---

七里 じゃあ、もうすこし、古い話、古いのを続けようと思うんですけども。

小浜 はい、またシルバー。

七里 シルバー、『SFファンジン』No.59

小浜 年に一回ね、もう、5、6年。

七里 もう、復刻5号になってます。

小浜 はい。

七里 で、これ、プロの寄稿もたくさんあります。<sup>なんぼひろゆき</sup>難波弘之さんをSFのプロってうかという、あれなんですけども。

小浜 いやいや、そうでしょう、そうなんだけど、結局これは、ですね、あの、今、還暦を迎えたような、70年代にファン活動をしていた人が、また再結集した、もので。「イскарチェリ」ってものと、「BAMU」ってのと、「科学魔界」ってのと、一時代を画したグループがあったんですよ、で、それが、彼らがそれぞれで、なかなか出すのが、しんどくなった、というか、みんなでやろうよ、という、ことで始まった同人誌ですね。

七里 えー、はい、これは、発行が、「全日本中高年SFターミナル」で。

会場 (笑)

七里 「BAMU」、「イскарチェリ」、「科学魔界」、となっています。

---

<sup>82</sup> 平井和正『超革命的中学生集団』1971年。「一の日会」のメンバーがモデルの登場人物が他にもみうけられる

小浜 で、この「中中年SFターミナル」というのは、「青少年SFターミナル」というのが昔あった、という。パロディなんですけども。

七里 だからなんですわね。

小浜 1960年代の後半に、すごい、中高生のSFファンダムってのがあったんですよ。ものすごい、中学校にもSF研があった時代で、いちばんファンダムが若かった時代でもあるんだけど。まあ、若かった？まあ、まあ。若い層が出てきた時代でもあるんだけど、その時に出てきた名前を、ちよつと、こう、ね、もじって使ってます。生え抜きなのは、それこそ、難波さんじゃないかな？この中では。

難波弘之さんっていう有名なキーボーディストの人がいて、音楽の人です、はい。

七里 これ、夢枕獏さんとかも書いてます。

小浜 獏さんも、ちよつとあとではある、んですけど参加しています。これ、とても、読み応えがあります。

## 我らの昨日のすべて-イスクーチェリ年代記 広島保生 2015/09/13

### 付録:日本SF研究会小史

---

七里 ええと、もう少し、昔話をしましょう。

小浜 はい、「我らの昨日のすべて」！これは、さっきもでてた、イスクーチェリは づ ひろあきっていうところに、波津博明さんっていう、名物親父がいてね。ねえ、みなさんねえ、死ぬまでに、本当に、いちどは交わって、て死んでで欲しいくらい、面白いオヤジです。読売新聞で、編集局次長までやって、大妻の先生に、あ、いっちゃった、女子大の先生に、とっても面白い人で。僕はもう、学生の頃からとっても世話になっていて、この人が、そのイスクーチェリっていうファングループを、70年ぐらいかな、北海道で始めた時から、自分たちが何をやってきたかってことを、本当に涙なくしても読めない、自分たちの青春活動記なんですわね。

ひろしまやすお  
だから、それをわざわざ本にした、広島保生ってのも、頭がおかしいんですけど。

会場 (笑)

これはね、何よりもびっくりするのが、この波津さんたち、ってのが、自分の活動を克明に記録しているんだよ。どういうナルシズムだって思うよ！

<これはいい本だ>

七里 付録もここに。

小浜 彼らがね、「イскарチェリ」っていうのが、これ、冒険者って意味かな、ロシア語の。

<探求者です>イскарチェリ

七里 ロシア語、ですか。

小浜 ある時、彼らは、アメリカとかイギリスの話をするってのは、あの、いいと！俺たちは、英米圏じゃないSFの話をするんだと、で、ならば、当時SF第二の大国と言われたのがロシアだったの。

八潮 (当時は)ソ連。

小浜 ロシアを、俺達はテーマにするんだ、と言い出したら、メンバーが、みんなロシア語を始めたっていうの！おかしいよね。

甘えび 勉強熱心～

七里 でも、北海道だと、やっぱりロシア語って。

会場 (笑)

甘えび それは偏見だと思う。

七里 いや、でも、身近なんですってば。

<今なら新潟でもできますね>ロシア語

会場若人 町にもロシア語の看板あります。

小浜 その視点は無かった。いや、知ってる知ってる、冷戦が終わったころね。冷戦が終わった時に陸上自衛隊の戦車が、北海道から撤収して、みんなその時に自衛隊員がやめたって話でしょ？ っていうのがあったんだよ。

御前 冷戦時代には、ソ連は北海道に上陸したり、普通に交易したりしてなかったの。

小浜 ま、まあ、それが関係があるとはともかく。それで、今有名な露文の、『ソラリス』<sup>83</sup>訳した……。

七里 深見<sup>84</sup>さんじゃなくて？

小浜 いやいや、まあ、深見さんも合流するんだけど。

沼野<sup>85</sup>さんね、沼野さんとかも合流して行って、波津さんもお友達だったの。という、非常に立派な。ただ、波津博明の誇大妄想狂っていうのが、ここには、

---

<sup>83</sup> スタニスワフ・レム作 『ソラリスの陽のもとに』飯田規和訳、『ソラリス』沼野充義訳 1972年の映画版は『惑星ソラリス』(アンドレイ・タルコフスキー監督・第9回星雲賞映画演劇部門受賞) 2002年の映画版は『ソラリス』(スティーブン・ソダーバーグ監督)

<sup>84</sup> 深見弾。ロシア・東欧文学者、翻訳家

<sup>85</sup> 沼野充義 スラヴ文学者

あって、これについては非常に夢見る世界として、後世に語り伝えたいなど、  
いう気がしますね。

会場 (笑)

波津さんよんでも良いよね、大会チャンネルに。

七里 楽しそう。

小浜 大日本<sup>86</sup>と戦った人ですね。愛国戦隊論争ってのがあって。もうめっちゃめっちゃおもしろいですよ、愛国戦隊論争。

(会場から) 吉田 『イスカーチェリ』が完売したという

### ローダンとは何か「宇宙英雄ローダンシリーズ」第 500 巻刊行 記念論集

*rlmdi. (ローダン研究会MDI) 2015/07/15*

---

七里 もう、ちょっと。

小浜 あ、はい、きました。ローダン<sup>87</sup>。

七里 ローダンのファンクラブの。

小浜 これ、いつ出た？

甘えび ちっちゃい(文庫版・A6 版)

小浜 (読みながら)説明して。

七里 これはですね、おとしじやないかな、2015 年です。500 巻記念で、あの、まとめたそうです、ローダンファンクラブの人が。

小浜 これ良いね、これ面白いね。

七里 こういうのも作っちゃったんですよ、500 巻記念でって。この年の自由部門<sup>88</sup>取ってますよね、たしか。

小浜 あ、ローダンがね。この、若林雄一さんっていうのが、本当に 30 年ぐらい前から、ローダン一筋っていうと申し訳ないかもしれないけれど、ローダン及びドイツSFについて、在野の研究者としてやっていた人。

ローダン研究会 mdi っていうのが、当時ローダンのファンクラブがいくつかあった中では一番質実剛健なところで、そこでずっとやってた人たちですね。ロ

---

<sup>86</sup> 『愛国戦隊大日本』(第 22 回日本SF大会 DAICON4(1983 年)のプロモーション作品)多方面に影響があった

<sup>87</sup> 『宇宙英雄ペリー・ローダン』ドイツのSFシリーズ。2017 年春に新プロジェクト(ローダン NEO)も刊行開始された

<sup>88</sup> 「《ローダンシリーズ》500 巻出版達成」が第 47 回星雲賞自由部門受賞

ーダンの途中の刊を訳したりしてね。誰もついていけない。この人は、本当に頭が下がるよね。

**浮遊(ぶらんくとん)ふぁんじん No. 89 執行モードデストロイ**  
**石田純一 2014/12/21**

---

七里 ええと、こちら。「浮遊(ぶらんくとん)ふぁんじん」です。これが、個人誌という。

小浜 個人誌、ですね。今までと違って、コピー誌で作っています。コピーの、片面印刷を袋綴じしたものです。

七里 小学校の文集の、自分で製本するような感じです。石田純一いしだじゅんいちさんが作ってます。

小浜 この石田純一さんって方が、柴野拓美賞<sup>89</sup>をうけているんですけども、80年代の半ばからこれ始めたんですよ。

七里 これ、91号。

小浜 まだ91号なのか。まあでも年3回くらい出てるのか。

ブックレビューをやって、えらいのが、『SFマガジン』を毎号読んで『SFマガジン』について考察を加えているのとか、あとは自分の創作が必ず巻末についているとか。でも、創作よりも、この人の書評っていうのは、本当に面白い。在野で一番、今、ブックレビューっていうのを、面白いのは、この石田さんかなど思っています。

**星の詩 21 みかんのかんづめ 2015/12/30**

---

七里 ファンクラブ系から。《星界の紋章》のファンクラブです。

小浜 長いですね、星界の。

七里 ちょっと、このような色みの。マンガです。

小浜 これは、森岡浩之<sup>90</sup>もりおかひろゆきファンクラブというのとは、また違うの？

七里 森岡浩之じゃなくて《星界の紋章》ファンクラブだと、思うー。

小浜 あ、そうなんだ。

---

<sup>89</sup> 日本のSFファンダムに功労のあった人物を顕彰する賞。1982年～2007年

<sup>90</sup> 作家。《星界》シリーズ以外では、「夜明けのテロリスト」で第30回星雲賞日本短編部門受賞

七里 でも、森岡さんの新刊が出ると、嬉しいです、ねっというような、ニコニコするような感じです。

これが、(C61では)1日目の、ファンクラブのところに移っちゃって、SFとはまた別の日です。

小浜 星界のってあれだよ、コンテンツ系のファンクラブができてくるっていえば90年代。それ以前という、《グイン・サーガ》なんだよね。

七里 グイン・サーガのファンクラブ、あったんですよ、この前まで、(コミックマーケットの)SFの島に定番で配置されていたんですけども。

小浜 あ、そう。

七里 SFの島から、ファンクラブ系がざっと、なくなっちゃったんですよ、だからSFの島で会えなくなっちゃって。

小浜 SFって70年代までは作家のファンクラブはたくさんあったんだけど、ないと恥みたくないかんじで。

でも、コンテンツというか、作品のファンクラブは、なかったんですよ。基本的に。その最初が、おそらく、《グイン・サーガ》。

七里 『クラッシュジョウ』<sup>91</sup>とどっちが先？

小浜 クラジョウ、ん、なかったですね。

七里 無かったですか。

<ウルフの会<sup>92</sup>より古い？>

<銀英伝は？>

甘えび コメントで銀英伝はなかったですかって。

七里 銀英伝<sup>93</sup>は、もうちょっと後なんだ。

小浜 銀英伝のファンクラブができるっていうのは、今の、コンテンツ系のファンクラブの時代に、近づいてくるんだと思いますよ。

### すたあとれつくぼのぼのジェネレーション 湖のひみつ スターシップ小林丸 2015/12/30

---

七里 パロディ的な感じで『すたあとれつくぼのぼのジェネレーション』という。

小浜 これ、良いんだよ、ピカード船長とぼのぼのが戦う話です。

---

<sup>91</sup> 高千穂遙著。現在も刊行継続中

<sup>92</sup> ウルフ会。平井和正公認のファンクラブ第1号。1974年発足

<sup>93</sup> 『銀河英雄伝説』田中芳樹著。第19回星雲賞日本短編部門受賞。2016年末コミックマーケット91では同様に小説FC(一部ゲーム)で扱われていた

七里 かわいい本です。

小浜 で、ホロデッキとかが必ずネタになるという。

### 20120324 走れ急げ言葉

高山羽根子 2012/03/24

---

七里 ええとですね、SFの人たちは、昔、やれイベントだと言っては本を作り。

小浜 うん。

七里 結婚したと言っては本を作り。

小浜 あ、高山羽根子<sup>94</sup>のやつね

七里 高山羽根子さん結婚おめでとうございます、という本を、作ったものです。「20120324 走れ急げ言葉」

これ、中身が面白くて、リレー小説です。高山羽根子さん。ええと、うどん？

小浜 『うどん、きつねつきの』の高山さんですね。

御前 アンタの時の、ないの？

七里 私ん時<sup>95</sup>は、時刊新聞しか、もらえなかった、なあ。本までは作ってくれなかった、新聞だった。

### 時刊新聞縮刷版 縮刷版 第52回日本 SF 大会 こいこん

時刊新聞社 2014/07/19

---

七里 と、いうことで、時刊新聞というのがあります。そこにいらっしやる<sup>みさきのりひろ</sup>御前憲弘さんがはじめた、えーと、何年でしたっけ。1981年<sup>96</sup>。日本 SF 大会の企画のひとつで、このような新聞を作って、時刊というので、なんとなく、1時間に一回くらいで、出して、配布して回る、配達して回っています、新聞少年、だった人たちが。

御前 ただで。

七里 無料配布しております、無配です。

---

<sup>94</sup> 作家。第1回創元 SF 短編賞受賞作を表題にした『うどん キツネつきの』発行

<sup>95</sup> 第38回日本SF大会 やねこん(1999年)前泊に行われた「やね婚」。暗黒星雲賞企画部門受賞。時刊新聞の特集号も発行された(というか、作った)

<sup>96</sup> 第20回日本SF大会 DAICON 3(1981年)

小浜 強制配布っていうんだよね。

七里 で、年やっています。その縮刷版というのが、でてます。

小浜 これがね、面白かったんだよね。

七里 毎年、年度で作っていますので、これは、こいこん<sup>97</sup>の時をまとめたもの、です。

小浜 けっこう、バラエティ豊かに持ってきてるね

七里 そうです？

**夏色の想像力 第53回日本SF大会なつこん記念アンソロジー  
草原SF文庫**

夏色草原社; (第53回日本SF大会なつこん実行委員会)

2014/07/19

---

**参考:原色の想像力 創元SF短編賞アンソロジー 創元SF文  
庫 東京創元社 2010/12/18**

---

七里 じゃあ、次、これが、ネタのひとつで(『原色の想像力』)何が出るかわかったと思うんですけども。

小浜 あー、はいはい。

七里 これの、パロディ本というのが作られています。SF 大会記念。「第 53 回日本 SF 大会<sup>98</sup>記念アンソロジー夏色の想像力」

小浜 こういふうな、ね、SF 大会記念出版的なね、本であって、本格的でした。なつこんっていうのも、つくばでやった人たちは、その前史としてはるこん<sup>99</sup>っていうものを日本のどこかで、関東圏のどこか——ああ、去年は関東圏じゃなかったけれど——でやってきてる。

っていうので、翻訳の同人誌出版をやっていて、そういった、あの本作って売っ払うっていうのを、あの、熱心にやっていた人たちが、わりと新人目の作家

に声をかけて——せなひであきといいいながら瀬名秀明<sup>100</sup>が書いているんだけど——これは、まあ、同人誌です。

---

<sup>97</sup> 第 52 回日本SF大会 こいこん(2013 年)

<sup>98</sup> 第 53 回日本SF大会 なつこん(2014 年)

<sup>99</sup> 日本で二回目のワールドコンを目指している SF ファンが主催するコンベンション

<sup>100</sup> 作家。「なつこん」ではゲストオブオナーをつとめた

甘えび うっぱらうって

**水玉螢之丞画業集成 雑誌篇 ver.1.0**

**田中すけきよ 2015/08/01**

---

七里 で、研究系から「水玉螢之丞画業集成 雑誌篇 ver.1.0」

小浜 はいはいはい。研究系っていうか、資料系ですね

七里 みずたまけいのじょう水玉螢之丞<sup>101</sup>さんっていう、しばらくまえにお亡くなりになられたイラストレーターさんの、ここで、こういうふうなしごとをしていた、というのを集めた本です。

小浜 これ、すけきよ君でしょ。

七里 そうです。

小浜 だから、ものすごいマニアの奴がいて、ですね、それが、水玉さんっていうのが、生前自分の仕事をまとめなかった人なんだよね。それを亡くなった後、水玉さんが、あの、生前だったら嫌がっていたであろう同人誌を作っている、ということ。

**STUFF66 Theme『青春』**

**福島大学SF研究会 2015/08/16**

---

小浜 『STUFF』きました

七里 で、残り、大学 SF 研から3つ。

福島大の『STUFF』これ、無配で、無料配布で頂いちゃって。

小浜 そうなんだ。というか、まだ続いているんだ、えらいねえ福島大。

七里 66 巻ですね。

小浜 これねえ、80 年代からやってる。誌名がかわってないところも偉い。

甘えび 大学のサークル系ってただで配っているの多くないですか？

七里 そう、今、大学の SF 研とかってただで配っているのが、それなりにあります。

小浜 そうなの。へえ。まあ、会費で賄っている、のがあるのかもしれない。

七里 なんですかねえ。

**Higami MAGAZINE VOL.13**

**明治大学SF研究会 2015/08/14**

---

<sup>101</sup> いさましいちびのイラストレーター。雑誌などでのイラストエッセイも多数ある

小浜 おう！

七里 明大 SF 研さんは『Higami ( MAGAZINE) 』というのをしばらく出していて、真面目な悪ふざけがとても楽しかったんですけれど。去年の夏、なんか模様替えしちゃって、(『テクノクラートの聖母』) どうすんだらうって、！

甘えび めいだい？

小浜 名古屋、じゃなくて、明治大学ですね

七里 明るいほう。どうするんだらう、これからどうなるんだらうって、ドキドキしながら。

小浜 っていうか明治の SF 研元気なのかあ。

七里 だた、(以前は『Higami MAGAZINE』を) 見ていたら、SF 色は薄いんですけれどー、と言われ、で、なんか、今回は、今までと路線違うんですけれども大丈夫ですか、って言われて。

小浜 これ、ずっと続いているのかね？

七里 1 巻目、去年の夏。

小浜 あ、だから、明治大 SF 研っていうのは、60 年代にカワセさんっていうかたが一回作って、何度かの興亡のうちに、83、4 年の、2、3 年かな、後に徳間書店で『SF Japan』<sup>102</sup>というのとかデュアル文庫を作ったりした、おおのしゅういち大野修一という人がいて、彼が再興した。

七里 大野さん、明治大学なんですか。

小浜 そうそう、大野修一はそうなん、ですよ。で、あの、創刊号が山田正紀特集だったのがすべてを物語っている。

<明治大SF研は下ネタが面白い>

<浮遊ファンジンの石田さんも明大 SF 研 OB。>

小浜 それが、連続してるのかどうかはちょっと分からない。

七里 連続しているんですかね？風間賢二<sup>103</sup>さんのインタビューとか。

小浜 風間賢二はね、明大で教えてたの。授業持ってたの。

七里 あ、先生だったのね。

小浜 しかも、本名でやっているの、風間賢二だとみんな気が付かなかったんだよ。

---

<sup>102</sup> 徳間書店発行の SF 雑誌。2000 年～2011 年発行

<sup>103</sup> 翻訳家、幻想文学研究家

本当はこのループ作品がすごい！-円環の理 Rebellion- 大阪  
大学SF研究会 SF Review vol.10  
大阪大学SF研究会 2014/08/17

---

七里 で、最後、SF 研のなかで、こちら。

小浜 きれいだね、どこ？

七里 大阪大学 SF 研。

<阪大 SF 研かあ。>

小浜 あっら！ほら、ata さん！

(会場から)ata 知ってるよ！

小浜 え、知ってるの。これ、立派だね。

七里 毎回テーマ決めて作られていて、

こ小浜 れ、いくら？

1000 円でこれか。これ、すごいな。200 頁あって。

これ、今回のグランプリ同人誌これな！

七里 で、このループ SF の回は、特にひきが良くて、他の、図書館だったりいろいろあるんですけど、目がキュッといっちゃうのは、なぜですかねえ。

小浜 これ、何、あの、レビューの中身っていうのは、しっかりしてんの？

七里 でも、これだけ数あれば、集めるだけでもすごいし、それなりに、見ていて私へーって。

小浜 こんなのあるのか、って。

七里 こんなのあるのか、も、だし。

小浜 ループってね、ちょっとね。

七里 (ネタバレにならないように紹介するのも) 難しいですねー。

小浜 SF の立場からすると、いかがなものかっていうのがあって、ですね。

第 56 回日本 SF 大会 ドンブラコン LL プログレス・レポート第 1 号]  
第 56 回日本 SF 大会実行委員会 2016/11

---

七里 で、さいご、あの、員数外。日本 SF 大会のプログレスレポート<sup>104</sup>、持ってきました。

小浜 まあ、これもね、同人誌だもんね

---

<sup>104</sup> 日本 SF 大会開催前に前もって(プログレス)発行される情報提供誌。頻度や形態、内容などは大会ごとに異なる。

七里 公式ページからダウンロードできるし、もうすぐ次ができる、と思うんだよね。

小浜 これ、ドンブラコンの？

七里 ドンブラコンLLの。

小浜 はいはい。

七里 というところでございます。

小浜 七里はこういうの集めていて、さっき楽しいですよ、と言ったけれど、どう楽しいの？

七里 多様性が見えて楽しい。

小浜 多様性！多様性ですか。

小浜 トランプ<sup>105</sup>死ね、みたいなかんじですかね。

七里 いやー、いやー、多様性が見えて楽しい、っていうところと、やっぱり、いろんな本観れて楽しい、いろんな人いろいろな人が見れて楽しい。同じか。

小浜 んー、あの、なんか、自分では気が付きもしなかった、こういう興味の持ち方、とか、そういうこと？

七里 あのお、そおですね。あと、若い人がいるのがうれしい。

小浜 ははは(笑)

七里 それはですね、80年代の、毎週ファンジン出していました、毎日ファンジン出していました、には、かなわないのかもしれないですけど、いる、のが、あ、意外に、いるねえ、と、思った。

小浜 あ、僕はね、だから、81年から85年まで学生なんですけども、世の中には自分が知らない面白いやつがこんなにいるんだ、というのが、同人誌の楽しみだったんですよ。そういう面白いやつらがいるんだったら、会いに行きたいな、というのが。

そこで、ファン活動と同人誌読者っていうのが、と、僕の中では全く同じだった。

<ファンジンを作れる人は社会がディストピアに転んでも地下出版で対抗出来るな(笑)>

だから、会いに行きたいっていうのが、大会の同人誌売り場っていうのがもう、最大の社交場だったわけじゃない。いつも、毎号買っている、俺だぜ、俺、みたいなかんじとか。

そういう楽しみかたっていうのが、精神においては変わってないと思うんですよ、そのマーケットが、変わっちゃっているっていうことに対して、どういう風に

---

<sup>105</sup> Donald John Trump 2017年に第45代アメリカ合衆国大統領となった

情報を統合したら、また楽しい時代が戻ってくるのかな、って中で、七里がやっているこの活動ってのは、俺は、非常に頼もしいと思っているんだけど。

<つまりファンジンとは人である、と>

やっぱり、その、SF 大会のチャンネルでもあるし、いちから言わなくても良いのかもしれないけれど、話題とか趣味とか共通する人間の中で、もっと面白いやつがいるんじゃないか、っていうことって、とても大切な原動力だと思ってですね、そういう興味が、いまでもどっかに残っていて、嬉しい、な。ってな感じですか。

<80年代はファンジンの定期購読という制度があったな。>

<うちのサークルはファンクラブだから作者をネタに遊んでるという感じだしなあ>

七里から、ファンジンコレクションに対して、みなさまの、参加を要請を、っていうか、コメントない？

七里 そうですね、まあ、本作って、楽しく本作ってください、そして私に知らせていただけると嬉しいです、っていう、こう、非常にこう。SF ファンジンコレクションの twitter ID はですね、@fzc\_sf です。

小浜 本当に七里は、そういうところ、コソコソした奴なんだよねえ。

七里 いやあ、ウツカリがあるのが、すごいこわいので！ので、ウツカリがあったら教えてください。訂正とか、やったりしないといけないことが、あると思うので。

小浜 うんー。

七里 さきほど、ネットワークプリントの、ローソンとかの時にも言ったんですけど、私、『eSFe Letter SF 系イベントを楽しむ会からのおたより』メールマガジンを出してしまって、その名の通り、SF 系イベントをなんか、集められたのを、メールマガジン形式で配信しています。

小浜 だから、SF 系のイベントと言っても、いわゆる大会とか言われるコンベンションだけじゃなくって、もうちょっとアマチュア、ファン交流会だとか、書店イベントだとか、そういうものまで網羅していて、非常に面白い。

七里 網羅、とは言いませぬけれど。

小浜 それも面白いよね、良く言われるのが、東京で、いろんな細かいイベントがあるじゃない？ ゲンロン<sup>106</sup>にせよ、ビリビリにせよ、あるんだけど。

そのとき必ず言われるのが、関東圏の人はイベントがあつていいねえ、って。SF に限らず言われることなんだけれども、地方イベントまで網羅すると面白いよ。

---

<sup>106</sup> ゲンロンカフェ。東京 五反田の株式会社ゲンロンが運営するイベントスペース

七里 地方イベント集めたいなあ。

甘えび 名古屋ぐらいだったら、名古屋大阪位だったら、情報集まりそうでしょうね。

<SF 専門でなくても良いかな？<同人誌>

ついでに、今、コメントのほうで、同人誌のほう、SF 専門でなくても SF の物だったら良いんですか、という質問が

小浜 専門誌じゃないと、ダメですか？

七里 いや、わたしは、なんでもウエルカムで。

小浜 そう、SF を扱っているものってあって、SF の境界、隣接領域を扱っている、特集の同人誌はいっぱいあって。

七里 わたしは、良いと思う。

甘えび 毎回、テーマが違って、今回のテーマは SF です、みたいなやつでも。

小浜 そう、逆にね、そういうのは昔ありえなかったもので、今そういうのがあるのはすごい豊かなことだと思うよ。

たとえば、今、ミステリのサークルだとされているんだけど、東京大学の「新月お茶の会」、これも 80 年代から始まって 35 年の歴史がある。

七里 なんとか猫？

小浜 そう、『月猫通り』<sup>107</sup>だ、月猫<sup>つきねこ</sup>ってのは毎回いろいろなサブジャンルを特集してやっていると、そういうところで、SF ないしは SF のお隣さんみたいなの特集することもあるし。

<あれ、じゃあ、立川ゆかり<sup>108</sup>さんの「天気図」も OK か。光瀬龍研究が載ってたはず。>

小浜 わりと、みんなやりたがるのは、新人賞、「メッタ切り」みたいなね、この、新人賞取ったの、全部レビューします、みたいな。そういうのは、ありますよね。そういう特集号は、とても歓迎されるんじゃないですか。

<奇想コレクションの全巻レビューをどこかのSF研がしていたよね。>

七里 逆にもれやすいので、そういうの知らなかったよ、というがあるので、私は教えていただければ、そしてむこうが嫌がらなければ載せたいと思います。

小浜 だいたい、七里の友達が買ったら教えろって話！

---

<sup>107</sup> 東京大学の学生を中心としたインカレ文芸サークルの「文芸同人誌」という扱い。2155 号が 2017/2 に発行されている。

<sup>108</sup> いわたの文芸誌『天気図』編集長。『是空の作家・光瀬龍』をSFマガジンに連載した。2012/2 号～2013/10 号

七里 そうそう、買ったなら教えて、情報だけでもください。本体くれても良いけれど。

で、私がわざわざ、なんで『SFファンジンコレクションカタログ』を年刊で出しているのかというと、まだ、ぎりぎり、バックナンバーが買えるかもしれないから。

小浜 うん。

七里 で、さっきの大阪大のとかも、(即売会に持ってきているのは直近の)何年分かだけなんだけれど、それ以外に、何の特集が欲しいんですけども、ちょっと前なんですけれども、っていったら、たぶん部室には何冊かあるんだわ。あると思うんだ私、売って良いようなものが。

小浜 うん。

七里 毎回持っていくほどじゃないけれど、言われたら出して良いよっていうのがあると思うので、欲しかったら、ちょっと連絡とってみるのが良いんじゃないかな。

小浜 それはね、基本、基本。この間知りましたけれど、昔の号も、あるだけください、ってのは基本。それは何も変わらない。

## ファンジンといえば

<電子書籍なども最近頒布されています。>(運営)

<電子書籍は老眼にとっても親切ですw>(運営)

甘えび そしたら最近、SF雑誌<sup>109</sup>とかもできましたね、

小浜 うーん。

七里 最近出た。あれは、でもプロじゃないんですか？

小浜 や、関係ない、観測者の、観測した人間がいて、なんぼなんだよ。

<SFのファンクラブ回報とかもあり？>

甘えび 今、コメントでSFのファンクラブ会報とかもふくまれます？って。

小浜 あたりまえですよ。

甘えび それがファンジンですよ。

小浜 そう、そもそものファンジンなんです。

<うちは年回報は同人誌で出してますし通販もしてます>

---

<sup>109</sup> 『SF雑誌オルタナ』 創刊:2016/10/27 vol.3:2017/4/20 まで電子出版をメインとして刊行中

<うち、ではなくなるべく具体名お願いしますー@甘えび>

<甘えびさん>谷甲州黙認 FC 青年人外協力隊です>

七里 会報も、どこまで、って問題が。あと、私のマンパワーの問題もありますので。

小浜 それはね、大変です。もちろんそう。

七里 会報とかも、会報、ってなんかおかしくない、まあいいや。

小浜 会報、うん、身内の連絡誌みたいな。

七里 連絡誌で、微妙なのが、これをだしたら、怒れれないだろうか、っていうような。

小浜 なにそれ？あ、他人に見せたら怒られる？

甘えび 一般に販売されていないものとか。

七里 販売されていないものある。

小浜 それはねえ、でもねえ、昔、すごい厳密に考えたことがあって、線引きをね、外に出さなかったら、それは存在を観測されていない同人誌なので。観測をされたいのであれば、外に出しましょう。

七里 でも、とある地方イベントで私は参加しなかったんですけども、偶然、アフターを、レポートを、手に入れまして、「アフターレポート」<sup>110</sup>といわない。

小浜 うん。

七里 記録出版物をいただきまして、これを表に出すなよ、みたいなのが書いてあって。

小浜 ややこしいね！ とてもややこしいね。

七里 身内だから話せる、こうクローズドな。

小浜 それはね、もうジャーナリズムの問題になっちゃう。たとえばね、「秘密同人誌」ってのがあるの。

会場 (笑)

七里 秘密？

<秘密同人誌かあ、地下出版っぽくて香ばしいな。ぬふふ。>

<秘密同人誌というと、昔の『THATTA』<sup>111</sup>とか『新少年』とか。>

<戦時中のエロ同人誌がそれだな。(笑)>

小浜 そういうことだよ、これを、存在を公けにするなって。フリーメイソンみたいなのが、ずっと、あるの。これを、どうやって、なんていうの、伝えるか。

---

<sup>110</sup> プロGRESS(開催前)レポートに対して、アフター(開催後)レポートとつけたくなるが、レポートに(事後)報告の意味があり、重複表現になるので誤用とされる。(と柴野拓美さんが良く言っていた)

<sup>111</sup> 紙媒体では1996年まで発行。「THATTA ONLINE」として現在も刊行継続  
中 <http://www.asahi-net.or.jp/~li7m-oon/>

七里 というのは？

小浜 いやいや、そういう事態に直面したことがあったの。友達、っていうか先輩がね、主催していた秘密同人誌。俺は、昔、『日本 SF 年鑑』<sup>112</sup>ってのがあったとき、それを存在するファングループとして書いた。そしてあとで怒られた。

甘えび 秘密だからな

小浜 さあ、正義はどちらにありますか、という、とても深い深い、ジャーナリズムの問題なんですよ。

たとえばね、一人がコツコツと立派な同人誌作ったとしてね、一冊も売りません。この同人誌は存在したのか？

七里 深い問題になりますよ？！

小浜 そうそう。

七里 観測の問題です？

<シュレディンガーの同人誌>

<きわめて深い問題だ>

小浜 でもね、同人誌って、そこまで考えざるをえないものがあるって。

七里 ひとりの落書き帳なのか、出版物になるのか、って

小浜 そうそう、肉筆回覧誌は、はたして！？ あ、肉筆回覧誌わかんないか。

七里 回覧しているからそれは……。

小浜 でも、第三者には無いじゃん。仲間内だけで

甘えび 購入できないし。

小浜 そう、そう、購入って概念をどこに置かかってというのがまたあるわけですよ。

七里 じゃあ、複製を取れるような、ワンオフじゃないっていう？？

小浜 たとえばね、ゆうきまさみ<sup>113</sup>さんが、去年漫画家生活何周年っていって、河出でムック<sup>114</sup>が出たんだけど、なんだっけ、飯田橋にあった、喫茶店<sup>115</sup>、マンガオタクが必ず行ってたという？ 本当にそれは SF にはなかなか無かった世界で憧れなんだけれど、そこで、肉筆回覧誌ならぬ、肉筆のスケッチブックがあったんだって。

そこに若かりし、あの人や、この人が、ずっといろいろな落書きをしていて。

---

<sup>112</sup> 1982 年版～1986 年版が発行された

<sup>113</sup> マンガ家 『究極超人あ～る』は第 19 回星雲賞コミック部門受賞

<sup>114</sup> 『ゆうきまさみ 総特集 異端のまま王道を往く デビュー35周年記念 (KA WADE 夢ムック)』2015/6/29

<sup>115</sup> 江古田の「まんが画廊」

七里 アニメイトに置いてあるような感じですかね？ 昔の。

小浜 あ、そうなの？

甘えび 昔、本屋にノートが置いてあって交流ノートがあるとか。

<肉筆回覧誌。バブル前は学生喫茶では普通にあったんじゃないか？>

小浜 そうそう、あるいは、部活のね、部誌サークルとか。でもそれは、その場にいた人間しか観測できないわけで。じゃあ、どうやって観測できるかという、だれかが、こんあものもありますよ、ってぶっちゃけないと観測できないわけですよ。

## これからの話を

(会場から)川合 はあい。この店の常連の川合と言います。たまたま、SF ファンでもあります。

会場 (笑)

川合 あのね、「白の乗り手」<sup>116</sup>という、SF、じゃないファンタジーサークルの会員なんですけれど。

小浜 トールキンファンクラブですね。

川合 小谷玲子さんから数年前から、

七里 こたに まり小谷真理<sup>117</sup>さん(それとも、れいこひかわ玲子<sup>118</sup>さん?)

川合 ごっちゃになっちゃった。小谷真理さんから勧められているのが、あんたんとこ、もう30何年やってるんだから、終活、そろそろ考えたらって。

川合 就職じゃないですよ。

会場 終わる活動ですね？

七里 終わるほうの終活？

川合 そうそう、終わるほうの。で、うち、35年間毎月出してるんですよ、連絡誌。

小浜 うん、「サロス」？

川合 それは「ローラリアス」<sup>119</sup>のほう。

---

<sup>116</sup> J・R・R・トールキン研究会 白の乗手

<sup>117</sup> SF&ファンタジー評論家。ローラリアスの創設に関わる。第17回日本SF大会 ASHINOCON(1978年)にて日本SF大会史上初のコスプレ『海のトリトン』をした

<sup>118</sup> 作家。ローラリアス会員

<sup>119</sup> ヒロイック・ファンタジー&ファンタジーファンクラブ<Rolarious>

小浜 あ、そうか。

運営コメント<終活…。>

川合 うちは、『エラノール』というんですけれども。

<人生の黄昏同人誌！！！>

川合 で、それをね、明治の図書館に寄付してはどうか、と言われて。

運営コメント<米沢嘉博記念図書館<sup>120</sup>>

小浜 あ、それは、したほうが良い。

七里 私思いますに、明治大学の図書館もそうですけれど、国立国会図書館のほうが良いと。

小浜 国会のほうがはるかに良い。

七里 二つとも送って良いかと思えます。と、言いますのは、今、国会図書館は、若干それにがんばって集めようモードになっていて。

それで！『宇宙塵』の欠号<sup>121</sup>があるんですよ、あなた。

小浜 あなたって、なに(苦笑)

七里 いや、みなさん、国会図書館で『宇宙塵』の無い号があるんですよ。

小浜 そりゃあ、あるでしょう。どれくらい、ないの？

七里 けっこう。けっこう、なんですけれど、みなさんの力をもってすれば、うまるくらい。

甘えび そろそろ死に始める SF ファンの蔵書を寄贈すれば補完されるって。

小浜 それはねえ、また、2 回ぐらい放送ができる大変なテーマなので。超ドシリアスな話になるので。

七里 終活とアーカイブに関する会をもうけなければなりませんね、きっと。

<野田コレ<sup>122</sup>とか岡田コレのようなことですね。>

小浜 だから、それは、まあまあ、話がでかくなるんだけど。それは、まあ、自分たちの作ってきたものを、やっぱり、次の世代にっていうのは、とても大事なことだと思いますし、誰かが、——それをこいつが活用してくれる、っていうんじゃないくて、誰か——みしらぬあなたに託すっていうのは、これ、すげえ SF じゃん。

七里 ロマンがありますねえ。

小浜 ロマンがありますよ、なんだっけ、カール・セーガン<sup>123</sup>がさ、宇宙に放った。

---

<sup>120</sup> マンガとサブカルチャーの専門図書館。コミックマーケットで頒布された見本誌など同人誌も多数所蔵

<sup>121</sup> 52 号以前と 60 号, 78 号は所蔵無し(2017 年 4 月)

<sup>122</sup>野田昌宏文庫。作家・翻訳家の故野田昌宏の蔵書である SF 関連資料など。  
の だ まさひろ

七里 『コンタクト』？

小浜 『コンタクト』じゃないよ。

七里 『コスモス』の。で、次の世代に。

会場 (笑)

小浜 次の世代に行く前に、今の世の中にいる人たちに、もうちょっと、同人誌に関する情報を。

もちろん、作ってくれるのがいちばん楽しいんだけど、それを、いろいろな人の手に渡るようなことで、楽しい時代が戻ってくると良いな。

大会で、同人誌の情報交換する部屋とかやろうよ。今、ディーラーズとか機能してないじゃん。

七里 あれはあれで面白いです。

小浜 まあ、じゃあ。機能してないとは言わないけど、じゃあ、同人誌の祭典としての場所ではなくなっているっていう意味で。

七里 サイテンってどっちです？お祭り？

小浜 お祭りお祭り。

七里 それはまた、企画として考えないと。

小浜 うん。

七里 でも、いま、大会でいろいろな企画があるので、いろんな企画詰めすぎちゃって、企画として粹取ったとしても、みんな、これるんじゃないかと、いう。

<初心者カフェ？w>

小浜 ああ、そうなんだよ。それ、あるんだよ。そういうことに興味があるやつは、みんなスタッフやってるから、無駄っていうのがあって。

会場 (笑)

七里 そういうところで、本日はありがとうございました。

小浜 ありがとうございました。

七里 じゃあ、次回また、よろしくおねがいします。

<お疲れ様でした。ぱちぱちぱち。>

<888>

---

<sup>123</sup> 天文学者・作家。テレビシリーズ・書籍『コスモス(COSMOS)』1980年、『コンタクト』(1997年に映画化)

## 登壇者紹介

### 小浜徹也（こはま てつや）

SF ファン活動研究家。「SF 初心者カフェ」では各方面のゲストスピーカーから話を引き出しつつ、補足（ツッコミ）をしている。東京創元社編集部。

### 七里寿子（しちり としこ）

「SF ファンジンコレクション」レトリーバー。第 45 回日本 SF 大会みちのく SF 祭「ずんこん」（2006 年）実行委員長。大学入学および日本 SF 大会初参加は 1991 年（第 30 回日本 SF 大会 i-CON）。

## 奥付

世の中には自分が知らない面白いやつがこんなにいるんだ、というのが、同人誌の楽しみだったんですよ

小浜さんとファンジンの話をしました

・発行日 2017/5/4

・サークル名 **SF\_fzc** SF ファンジンコレクション

七里寿子（しちり としこ）

・発行責任者の連絡先

[https://twitter.com/fzc\\_sf](https://twitter.com/fzc_sf)

<http://7ri.o.oo7.jp/fzc/>